



A. 注目を浴びたオープニングセレモニー B. アーバンスポーツとして人気のストラックライン C. 会場内にはモビリティを敷き、ビーチでバリアフリーを設けた D. ビーチモルックを楽しむ子どもたち。誰もがビーチスポーツを体験できるプログラムを導入した



ツボを押さえて読むほどハマる!

# はだし文化新聞

ふむふむ

No. 17 2023 9/20

2023年9月20日発行 通巻第17号  
発行/NPO法人日本ビーチ文化振興協会  
編集人/佐伯美香  
〒104-0033 東京都中央区新川1-1-7 リバーサイド茅場町3階  
電話 03-3552-1171

INDEX

- 1面 ・特集 5万人が来場! 「サザエさん」とコラボレーションが大盛況
- 2-3面 ・「ビーチライフ in 南紀2023」が2023年6月18日(日)、和歌山県を象徴するビーチ・南紀エリアで開催された。今回の会場は田辺扇ヶ浜ビーチと白良浜ビーチ。老若男女が地元資源を活用し愛郷心を育み、ビーチが「集い賑わう憩いの場所」になることを目的に掲げた。

## JAPAN BEACH GAMES FESTIVAL ODAIBA 2023

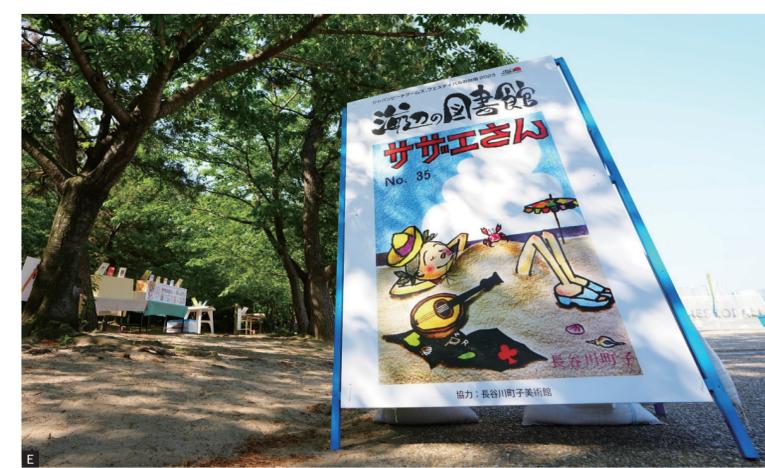
# 3日間で5万人が来場!

## ジャパンビーチゲームズフェスティバルお台場2023

### 「サザエさん」とコラボレーションが大盛況

今年で4回目を迎えたジャパンビーチゲームズフェスティバルお台場2023(以下「JBGFお台場」)が5月3日(祝・水)から5日(祝・金)の3日間、東京都港区のお台場「心のバリアフリー」を抱き、子どもから大人までバラスポーツをトライできるようなプログラムを盛り込み、「誰もが友達になれるビーチ」を展開。公式戦・体験会では、過去最高の20種目が集結し、そのうち新種目は3種、加わった。動員数は3日間合わせておよそ5万人、体験会には4000人が参加。新型コロナウィルス感染が次第に落ち着き始め、制限も緩和され始めた。制ウイークのビーチには、家族連れや外国人まで多くの人々がビーチで戯れていた。ようやくお台場がビーチにコロナ前の賑わいが戻ってきた。

「幅広い世代の方に立ち寄りてもらえるよう、大人も子どもも楽しめる本を揃えました。砂浜と木陰の心地よさを感じたい」



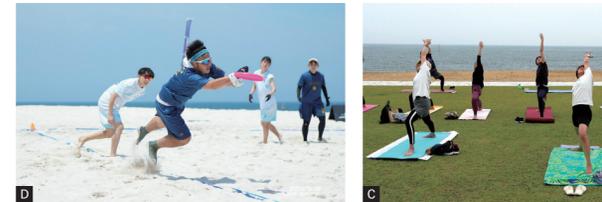
「幅広い世代の方に立ち寄りてもらえるよう、大人も子どもも楽しめる本を揃えました。砂浜と木陰の心地よさを感じたい」

「幅広い世代の方に立ち寄りてもらえるよう、大人も子どもも楽しめる本を揃えました。砂浜と木陰の心地よさを感じたい」

E. ビーチ正面の木陰に開設した海辺の図書館 F. 書棚は絵本から漫画までバリエーションに富んでいた G. チェアで読書をする子どもたち H. サザエさんは大人にも人気を呼んでいた I. 館長を務めた森本英香さん



A. 家族そろって笑顔がはじけた田辺扇ヶ浜ビーチ B. 「親子はだし運動会」ではお父さんがハッスル C. コラボレーションイベント「ヨガムドラ和歌山たなべ」 D. コラボレーションイベント「第8回全日本ビーチアルティメット選手権大会」



今年で4回目を迎えたジャパンビーチゲームズフェスティバルお台場2023(以下「JBGFお台場」)が5月3日(祝・水)から5日(祝・金)の3日間、東京都港区のお台場「心のバリアフリー」を抱き、子どもから大人までバラスポーツをトライできるようなプログラムを盛り込み、「誰もが友達になれるビーチ」を展開。公式戦・体験会では、過去最高の20種目が集結し、そのうち新種目は3種、加わった。動員数は3日間合わせておよそ5万人、体験会には4000人が参加。新型コロナウィルス感染が次第に落ち着き始め、制限も緩和され始めた。制ウイークのビーチには、家族連れや外国人まで多くの人々がビーチで戯れていた。ようやくお台場がビーチにコロナ前の賑わいが戻ってきた。

## ビーチライフ in 南紀2023。2つのビーチで同時開催。

- フライングディスクゲーム
- ビーチテニス体験
- 遊佐雅美の「海辺の安全教室」
- ビーチラン飛ばし大会
- ビーチラグビー体験会
- 梅干しの種飛ばし大会



今年で4回目を迎えたジャパンビーチゲームズフェスティバルお台場2023(以下「JBGFお台場」)が5月3日(祝・水)から5日(祝・金)の3日間、東京都港区のお台場「心のバリアフリー」を抱き、子どもから大人までバラスポーツをトライできるようなプログラムを盛り込み、「誰もが友達になれるビーチ」を展開。公式戦・体験会では、過去最高の20種目が集結し、そのうち新種目は3種、加わった。動員数は3日間合わせておよそ5万人、体験会には4000人が参加。新型コロナウィルス感染が次第に落ち着き始め、制限も緩和され始めた。制ウイークのビーチには、家族連れや外国人まで多くの人々がビーチで戯れていた。ようやくお台場がビーチにコロナ前の賑わいが戻ってきた。

## 「ジャパンビーチゲームズ」開催実現へ。



上: ジャパンビーチゲームズの会場となる須磨海岸 下: ビーチバレーボールは国内最高峰ツアーが開催される予定

2023年11月4日(土)、5日(日)の2日間、「ビーチゲームズ」日本招致プロジェクト「ジャパンビーチゲームズ」が、兵庫県神戸市の須磨海岸を舞台に開催される。

## 「完全に完全競技化!」

2023年秋、完全競技化となる「ジャパンビーチゲームズ」が、兵庫県神戸市の須磨海岸を舞台に開催される。

「完全に完全競技化!」

今年も一段と猛暑でした。コロナ禍の予防策から熱中症対策へと判断を許さず注意を払い、ビーチでの活動を推進し参りましたが、このイベント会場でも盛り上がりを見せました。

みなと総研 株式会社日本港湾コンサルタント

### 2023年 年間活動予定

3月~12月	川崎ビーチバレー/川崎市東扇島公園かわさきの浜
4月~12月	お台場ビーチバレー/港区お台場海浜公園おだいばビーチ
9月~10月	「港区立小中一貫教育校お台場学園」/港区お台場海浜公園おだいばビーチ
10月1日	『ビーチライフ in 伊予2023』/伊予市五色浜海岸
10月7日	『川崎みなと祭り・ちびっこはだし運動会』/川崎市東扇島公園かわさきの浜
10月14, 15日	『ジャパンビーチゲームズフェスティバル千歳2023』/千歳市稲毛海浜公園いなげの浜
10月21, 22日	『ビーチライフ in 九十九町2023』/山武郡九十九町片貝中央海水浴場
11月4, 5日	『ジャパンビーチゲームズ須磨2023』/神戸市須磨海岸



港区立小中一貫教育校お台場学園 川崎みなと祭り・ちびっこはだし運動会 ジャパンビーチゲームズフェスティバル千歳

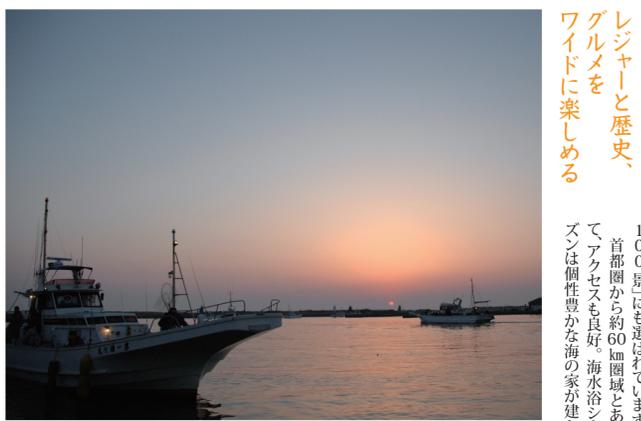


**遊** 佐雅美は人生の大半をライフセイビングに捧げている。「18歳から始めたのもう30年(笑)。多くは年下になつてしまいましたが、年齢を超えて切磋琢磨してトレーニングをする。海辺の監視活動をする仲間がいることに誇りを感じています。また、水辺事故をゼロにしたいんです。自分が携わることで事故を未然に防ぎたい。それが長く続いているモチベーションです」

新潟県柏崎市に拠点を置き、夏は海水浴場の監視活動を行う。さらに、後進となるライフセーバーの育成、「海辺の安全教室」として子どもを中心に多くの人に、海の危険性だけでなく、楽しさ、親しみを感

じてもらう活動にも力を注いでいる。「多くが学生であるライフセーバーは今、全国的にも減っています。水の事故を防ぐには監視の目は多ければ多いほどいいので、仲間を少しでも増やしたい。それに、子どもたちが安全に海に親しむ、興味を持つってもらう環境づくりも大切だと考えています」

遊佐はビーチフラッグで22回の日本女王、4回の世界女王というタイトルを持っている。いまは現役である。「今年も10月にある全日本選手権を目指して、練習しています。限界? まだ感じていません(笑)。ただ、競技は監視活動の延長線上にあるもので、トレーニングもあくまでも人命救助が目的



**レジャーと歴史、グルメをワイドに楽しめる**

「楽しい」という声を聞けました。これからも実際に体験してもらええる機会が増えればと思います(加藤)

芝生やアスファルトでも競技可能。場所を問わずに楽しめるエアバドミントンに注目だ。

**様** 々なビーチ競技と出場機会があるのは、J.B.G.F.お台場なら。今回は日本で初めて、ビーチカバディの体験会が開催された。

カバディはインドやバングラデシュの伝統スポーツで、レーン中の「カバディ、カバディ」という掛け声が特徴的。日本でもカバディに打ち込む高校生を描いたアニメが放送されるなど、若い世代を中心に認知度が上がりつつある。

ルールは鬼ごっこをイメージするわりやすい。相手の陣地に入って防御側の選手になることで自陣に戻るか、自陣に侵入した敵を捕まえることで得点を競う。相手の足を持つたり、地面に倒したりという格闘技的

な要素が強いが、砂の上なら転倒の衝撃も少なく初心者も安心だ。

日本カバディ協会の理事の河合陽児さんは「カバディは道具がいらず、初めてでもどんな世代の方でも気軽に楽しめるスポーツ」と魅力を語る。体験会では、日本代表の選手たちが参加者に基本的なルールを説明し、チームで作戦を練ってゲームを進め、見事相手をつまらせたコートから歓声が上がっていた。

2026年に愛知で開催されるアジア競技大会では、正式種目として決定しているカバディ。またアジア圏ではビーチカバディの大会も盛んだ。学生時代にカバディと出会ったウヰエデザイナーの仕事しながら女子

子の日本代表として活躍する坂本夏夏さんは「いかに敵を捕まえるか、また捕まらないように得点する」という頭脳戦の側面があり、とても奥が深い競技。もっと仲間を増やしていきたい」と意気込んでいた。

H. 国内初の体験会を開催した「ビーチカバディ」  
I. 日本代表選手たちとふれあいがあつた体験会の様子



「お台場はたくさん人がいて体験会に参加していたが、5日に行われたビーチテニスでは、屋外で行うバドミントン、エアバドミントンの体験会が行われた。一見、シャトルが風で飛ばされそうと思いきや、「外でバドミントンができるように開発された専用のシャトルを使います。少し重くて風が抜けるように作られているので初心者でもやりやすいですよ」と日本エアバドミントン連盟の加藤美幸さん。

競技化されたのは2019年から、ルールもラリーが続くように工夫されており、コート前方にシャトルが落ちたらアウトになる。

近年はバドミントンも人気上昇中とあって、今回の体験会への参加も途絶えることはなかった。

**アジア競技大会で正式競技化となる「ビーチカバディ」国内初の体験会**

「お台場では場所に合わせてコートを持参して行いました。うちの孫も参加しました。高年齢者から子どもまで一緒に楽しむのが楽しかったです。日本でも大会を増やして普及を目指していきたいですね」と今後のビジョンを述べた。

**ジャパンビーチゲームズフェスティバルお台場2023 新競技を含め、過去最多の種目が勢揃い**



「ビーチテニスは参加する服装がコートウェアの選手たち。D. ビーチテニスボール体験会は積極的に指導。E. 選手たちが楽しむ姿をファンも見守っていた。

「お台場はたくさん人がいて体験会に参加していたが、5日に行われたビーチテニスでは、屋外で行うバドミントン、エアバドミントンの体験会が行われた。一見、シャトルが風で飛ばされそうと思いきや、「外でバドミントンができるように開発された専用のシャトルを使います。少し重くて風が抜けるように作られているので初心者でもやりやすいですよ」と日本エアバドミントン連盟の加藤美幸さん。

競技化されたのは2019年から、ルールもラリーが続くように工夫されており、コート前方にシャトルが落ちたらアウトになる。

近年はバドミントンも人気上昇中とあって、今回の体験会への参加も途絶えることはなかった。

**屋外専用のシャトルでラリーが続くエアバドミントン**



「お台場はたくさん人がいて体験会に参加していたが、5日に行われたビーチテニスでは、屋外で行うバドミントン、エアバドミントンの体験会が行われた。一見、シャトルが風で飛ばされそうと思いきや、「外でバドミントンができるように開発された専用のシャトルを使います。少し重くて風が抜けるように作られているので初心者でもやりやすいですよ」と日本エアバドミントン連盟の加藤美幸さん。

競技化されたのは2019年から、ルールもラリーが続くように工夫されており、コート前方にシャトルが落ちたらアウトになる。

近年はバドミントンも人気上昇中とあって、今回の体験会への参加も途絶えることはなかった。

**高齢者から子どもが一緒に楽しめるウォーキングサッカー**

サッカーでもない、フットサルでもない、ビーチサッカーでもない。相手の接触なしで歩きながらボールを蹴って行う「ウォーキングサッカー」が、J.B.G.F.お台場の新競技紹介として初お披露目された。10年ほど前から伝道師として国内の普及に携わってきたアデマル・レイラ・マリーニョさんは「日本では知らない人が多いですが、誰もがどこでもできるサッカーとしてイギリスではとても人気です」と楽しさを語る。

コートの大さは、環境によって調整も可能。フィールドは、屋内外問わない。ゴールキーパーを含み1チーム5〜8人で行う。ボールは高く蹴り上げてはいけない。(テニ



「お台場では場所に合わせてコートを持参して行いました。うちの孫も参加しました。高年齢者から子どもまで一緒に楽しむのが楽しかったです。日本でも大会を増やして普及を目指していきたいですね」と今後のビジョンを述べた。

**Vリーグ「東京グレートベアーズ」がビーチスポーツの魅力を発信**

2022年にF.C.東京バレーチームを引き継ぎ、Vリーグに参戦しているプロチーム「東京グレートベアーズ」の選手たちがそろってお台場ビーチフラッグフェスティバルなど様々な種目を、他競技の選手や一般参加者と一緒に楽しんだ。

なかでも注目を集めていたのは「フレスコボール」の体験会に参加したメンバーたち。ラケットとゴムボールを使い、向かい合った二人がボールを落とさずラリーを続ける体験に初めは苦戦していたものの、すぐにコツをつかんだ様子。徐々に二人の距離を離しながら、リズムカルにボールを打ち合っていた。

今回初めてフレスコボールを体験した東京グレートベアーズの戸部高夫選手は「道具を使うのは難しかったですが、楽しかったです! ボールをラケットで受ける感覚は、バレーボールのレシーブに活かせるのではないかと思います。ビーチスポーツをいろいろ経験し、その魅力をもっと発信していきたい」と笑顔で話した。



「お台場はたくさん人がいて体験会に参加していたが、5日に行われたビーチテニスでは、屋外で行うバドミントン、エアバドミントンの体験会が行われた。一見、シャトルが風で飛ばされそうと思いきや、「外でバドミントンができるように開発された専用のシャトルを使います。少し重くて風が抜けるように作られているので初心者でもやりやすいですよ」と日本エアバドミントン連盟の加藤美幸さん。

競技化されたのは2019年から、ルールもラリーが続くように工夫されており、コート前方にシャトルが落ちたらアウトになる。

近年はバドミントンも人気上昇中とあって、今回の体験会への参加も途絶えることはなかった。

**おらが街のビーチ自慢**  
～ここはいいトコ、一度はおいで～

「楽しい」という声を聞けました。これからも実際に体験してもらええる機会が増えればと思います(加藤)

芝生やアスファルトでも競技可能。場所を問わずに楽しめるエアバドミントンに注目だ。



サーフィンのスポットとしても人気

**千葉県・九十九里町**

千葉県・九十九里町は、全長約66kmに及ぶ九十九里浜のほぼ中央に位置します。片貝、不動堂、作田、真亀海岸と開放感溢れる海岸線が魅力の街。不動堂海岸には、巻貝をモチーフにした高さ22mの展望台「九十九里ビーチタワー」があります。ビーチタワーから眺める太平洋の眺望は、「ちば眺望100景」にも選ばれています。首都圏から約60分圏域とあって、アクセスも良好。海水浴シーズンは個性豊かな海の家の建ち並ぶ。

**おらが街の味自慢**

九十九里と言えば、身が大きくてプリプリの地はまぐりが自慢の名産です。貝汁があふれ出てくるはまぐりの浜焼きは食べた瞬間、口の中に風味が広がります。海岸線にはそんなおいしはまぐりが食べられるお店がたくさんあります。天然ものの絶品はまぐりをぜひ味わってみてください。

**千葉県・九十九里町**

並び、マリネレジャーを楽しむ人々で賑わいます。また、我が国最初の実測地図「大日本沿海輿地全図」を作製した人物である伊能忠敬は、九十九里町が生誕の地。伊能忠敬記念公園は、偉人の歩み歴史を感じることでできる観光スポットとして知られています。マリネレジャー、歴史、グルメをワイドに思う存分楽しめるそれが九十九里町です。

**田辺市・田辺扇ヶ浜海水浴場**

日本・和歌山県

この地区はビーチ総合力を大いに活かしてくれています。南紀エリアはすでにスポーツを活用した地域づくりのトップランナーであり、加えて多数のビーチが存在しているビーチタウンでもある。

そのリーディング的存在である田辺市が「ビーチライフin南紀2023」を開催。我々が目指すビーチカルチャーの幕が開いた。ビーチには歓声と笑顔、家族・地域の絆と新しい一面が生まれることとなった。

この砂たちもきっと待ち望んでいたに違いない。田辺市と白浜町がコラボし、南紀が新たに動き出す。それを支えるビーチ砂は、その役割を完璧に果たしてくれよう。私の見立ては、「タフ」。スポーツもレジャーも、遊びも消いも、すべてを受け入れてくれる力強さを感じる砂である。利用が増えれば増えるほど、この砂たちの輝きは増すだろう。再会を期待している。

**砂ソムリエ**

「朝日健太郎が目利きする」

元プロビーチバレーボールプレイヤー! 朝日健太郎が各地の砂を踏んで触ってビーチスポーツにふさわしい砂を選ぶ「砂ソムリエ」は、足跡の数で評価し、足跡3つが最高だ。さて連載第15回で取り上げるのは田辺扇ヶ浜の砂。

この砂たちもきっと待ち望んでいたに違いない。田辺市と白浜町がコラボし、南紀が新たに動き出す。それを支えるビーチ砂は、その役割を完璧に果たしてくれよう。私の見立ては、「タフ」。スポーツもレジャーも、遊びも消いも、すべてを受け入れてくれる力強さを感じる砂である。利用が増えれば増えるほど、この砂たちの輝きは増すだろう。再会を期待している。

**総合評価**

「はだし」1つ半!!

